

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103725		
法人名	有限会社 ジャスト・サポート		
事業所名	グループホーム やすらぎの郷たつた		
所在地	熊本市北区弓削1丁目8-47		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年2月16日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの基本理念をスタッフ全員で共有し、利用者一人ひとりの個性を理解したケア、対応に繋げている、また、入居者本意の生活・自己決定・意思の尊重を大切に家庭的で安心と満足ある生活の提供に取り組んでいる。医療面での体制も毎週月曜日に2週間に1回1階・2階の往診(定期往診)対応しており、利用者の安心感と医療面でのバックアップとなっている。コロナ禍になり地域行事参加が困難な為、ホームへの季節行事を行うことで季節感や気分転換を図ってもらえる様に努めている。また、家族との時間も過ごしてもらるように家族との距離を取っての短時間面会やテレビ電話を行うことで家族との楽しい時間づくりになる様に努めている。また生活や身体状況変化の電話連絡や面会の際の伝達はもちろんのこと、地域への働きかけや、関わり状況を把握していただけるよう運営推進会議は実施出来ていないが、連絡を取議事録作成を行い運営推進会議委員の方々に送付したり、やすらぎ便りにて利用者の生活状況や表情を見ていただいている。それらを基に安心と信頼関係の構築に努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して18年の経年により、入居者の入れ替わりが多い現状ではあるが、ゆとりある生活空間と職員の対応、医療との密な連携は安心感となり、入居して10年という入居者もあまり変化も無く穏やかな生活ぶりに職員のケアの確かさが表われている。管理者を中心として働きやすい職場環境づくりへの取り組みは、自然体での対応と根拠のある支援を両立し、尊厳や本人本位を大切にしたい日常生活は理念に謳う“明るく笑顔の絶えない、自分らしさを大切に”等を具現化している。地域の中の事業所として“弓削ゆるっと見守り隊”としての協力等新たに取り組み、コロナ禍という現状にある中で運営推進会議の報告や便りにより発信し続けており、コロナ感染症対策の緩和により地域との交流等再度動されることと大いに期待したい。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ、事業所の分かりやすい所に掲示している。また、常に方針・目的として理念に添っているか話し合い、共有し、ケアに活かすように取り組んでいる。	開設時からの基本理念及具現化した管理運営方針を日々のケアに直結させるべき、見直しを検討している。その中で、明るく笑顔の絶えないや…は、入居者と職員との日常生活に反映させ、自分らしさを大切に…は生活歴を把握し入居者の“らしさ”を追求している。家族や地域とともに歩む…は、地域との関係を保つよう努力する等理念が日常生活に具体的な形で反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員となるように、町内会費の支払い、地域への協賛金などにも貢献している。コロナ禍になり交流が思う様に出来ていないが、定期的に連絡を取り、情報の共有を図り運営推進会議雄議事録を作成して委員の方々やご家族に送付している。	地域の中のホームとして町内会の一員として関わり、これまでは地域の敬老会や小学校の運動会等に出かけたりホームにも足を運んでもらっていたが、コロナ禍により相互交流は難しい現状に有り、地域の一斉そうじへの参加によりこれまで築き上げた関係を継続させ、“弓削ゆるっと見守り隊”の一員として登下校中の子どもたちの見守りに関わる等地域に根ざしたホームである。	コロナ感染症の収束により、これまでの近隣住民と入居者との交流が再開されるものと大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて運営推進会議は行っていないが、定期的に連絡を取りながら情報の共有を図り、気軽に相談をしていただけよう伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際の運営推進会議はコロナ禍になり行っていないが、日頃より連絡を取り共有して意見も取り入れられるようにしている。	運営推進会議は今年度もまずは委員や家族に意見や地域の情報を聞き取り、ホームのイベントや身体拘束委員会からの状況報告や面会方法等を記載するとともに、地域からの報告として各委員の報告事項等をまとめ、ホーム便りとともに委員及び家族への郵送により情報を共有している。次年度は対面での開催を検討する意向である。	運営推進会議の開催方法・場所の検討やあらためて運営推進会議の役割などを説明し、地域密着型サービスとしてこれまでの歩みとともに今後について検討する機会として大いに期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か相談事例がある場合は熊本市にて介護相談を図っている。昨年はコロナ施設内感染があった際は保健課より訪問していただき感染対策の指導をして頂いている。また、生活保護の入居者も多く担当部署と連携を図っている。	行政には不明な事案や相談等事ある毎に相談する関係にあり、コロナ感染対策での指導や地域包括支援センターや病院の連携室等からの在宅生活困難事例の相談を受けたり、行政担当部署と連携(生活保護等)している。介護認定更新を代行し、訪問調査に立ち会い情報を発信している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施しており、玄関の施錠や拘束がもたらす弊害について理解しており、居室・玄関を含め施錠はしていない。身体拘束を行わない方針で取り組んでいる。	申し送り時やミーティング時に身体拘束について勉強会を開催し、基本に立ち返ることとする他、ユーチューブを活用しながら職員自らが勉強を行い、言葉での拘束等グレーゾーンについては職員同士が注意関係しあう関係が構築し、ストレスケアの一環として管理者は職員の顔色等を見ながら声を掛け、ストレスをためないように心掛けている。玄関等日中は玄関等開錠し、オープンな環境としている。	外出傾向の高い入居者には職員が一緒に外に出る等の対応がなされている。今後も入居者の所在確認・見守りの徹底や職員の手薄時間の対応等を話し合われることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、虐待の内容などについて勉強会を実施している。スタッフ間にて虐待が見逃されないように話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待の経済的虐待と共に、青年後見人制度についての必要性や仕組みについて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する不安や疑問点・解約についても含めて、入居契約時に時間をかけて十分に説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の不満、苦情などはその都度、傾聴し対応を行い、生活の中で組み取っている。家族様には定期連絡を取る際意見を伺う機会を作る様にしている。また意見書を出しやすい様に玄関に意見箱を設置している。	入居者には日々の生活の中で要望等を聞き取りする等入居者の声に耳を傾けており、食べたいものの希望に個別に支援している。コロナ感染症のレベルにより面会の可否を決め、家族と対面してもらう工夫をし短時間での面会としている。テレビ電話での対面や動画、ライン電話等駆使しながら家族への情報発信や意見等を聞く努力をしている。	これまでは頻回に面会に訪れられる等協力的なご家族で有り、ホームからの情報発信が訪問もままならない状況でも安心につなげている。コロナ感染症の緩和によって、花見等の企画により、家族との交流する機会として生かされることを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングを行い、内容により、代表者へ報告しており、意見や提案など伝える機会として反映させている。	申し送り時に職員の意見を収集する他、入居者のケアについての意見は日々挙っている。事務長を通じて職員の意見を上申し、運営会議(オーナー会議)時に職員から出された運営的な問題点は検討する体制としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの状況については、日報やその他、定期的な報告によって状況把握されており、処遇に関しても現場の意見を反映させている。また勤務年数10年の職員に手当てがある事になり、職員のやる気にもつながっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのスキルアップに関しては、理解されており勉強会や研修参加の働きかけがあり、育成に努めているがコロナ禍になり余り参加出来ていない。今後オンライン等を使いながら参加を促していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加へ余り参加できていない為、定期的に同業者と連絡を取ることで交流機会が保たれている。今後オンライン研修等への参加を進めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に入居者様、その家族様とのコミュニケーションを図りながら不安なこと等を聞き取ると共に他施設職員と綿密な情報共有が出来るよう努めている。また利用時には、その情報を基に安心できるケアが図れる様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際に、インテークシートを持ち寄り、情報収集と共に要望などの把握に努めている。また、入居後も定期的に連絡をし聞く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況に合わせその時に必要とされるサービスの情報提供やアドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で食事後の食器拭きや、一緒に掃除をしたり、レクリエーションの時間にラジオ体操や一緒に新聞を読んだりしながら、暮らしを共にする関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて居室での面会が困難な生活の中、家族とのテレビ電話や家族との距離をおいての面会を行うことで家族との時間が図れる様にし、家族も共に支えている関係性が保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係が途切れないよう支援している。電話がある時は本人と話して頂ける様に対応している。	誕生日にお花が届いたり、手紙が寄せられる等入居されても教師と教え子との関係が継続される入居者や、ノンアルコールでの晩酌、同じ美容室からの訪問美容等馴染みの場所への外出支援は難しい現状にあるが出来る限り支援している。長年行きつけの美容院へ行きたいとの希望もあり、コロナの状況によっては叶えられることと大いに期待したい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より職員が入り利用者様季節ごとの行事や、1日1～2回のレクレーションを展開し関わり合いが持てるよう関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や、本人からの相談があった際は、時間を設けて相談にのっている。現在以前母親が入居されていた娘さんが運営推進会議の委員の1人におられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活にて、個人の会話や行動にて意向を見つけ出す努力をしている。また本人からの情報収集が困難時は、生活歴や家族からの情報を取り入れる様にしている。	自宅では良く散歩に出かけていたとの情報から神社まで一緒に歩いて出かけるなど入居者との会話の中から把握した事柄を実現させ、誕生日には食べたいものを聞き取りし提供する等自己決定ができるよう声を掛けている。意思疎通困難等には家族の情報や職員が行動・言動から推察しながらケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューシートによる情報収集、家族の情報、これまでの利用機関からの情報、本人の会話をもとに把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りによる生活状況の把握、カンファレンス、個別記録、日課表をもとに把握している。有する能力については、レクやIADL参加を促しコミュニケーションと共に現状把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、家族、他スタッフ、主治医等と必要に応じて話し合い、評価、介護計画作成を行っている。	入居1ヶ月は本人を知る期間として暫定プランでスタートし、3ヶ月毎のアセスメントやモニタリングにより各項目の評価により、継続可否の理由を明確にしている。身体的な低下には出来る限り身体を動かしてもらう事等の継続、トイレでの排泄に介助が必要となるなればプランを変更する等現状に応じて介護計画を見直すとともに、退院後状態の変化での見直し等現状に即したプランが作成されている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録とケアプラン実施記録を個別記録に記載し、評価、介護計画作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や状況に応じた定期的な往診・受診、必要なりハビリを行っている。また、様々なニーズに対応できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に生活を楽しめるよう民生員や町内役員を通じて、見守り体制などの協力を促し整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある際は、家族希望のかかりつけ医の受診を支援している。また主治医と相談し、専門医への診察や相談、治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医については本人・家族の希望を確認しているが、現在は殆んどの方が母体の医療機関による2週間に1度の訪問診療を受けている。また、必要があれば訪問看護を利用している。専門的な医療が必要な場合は、家族や職員の同行による受診が行われ、歯科は必要時のみ支援しており、職員は食後の口腔ケアや義歯の管理など個々に応じて支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員・介護職や往診のナースと相談・報告・連絡などの連携を図り、意見交換を行いながら健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との協働に関しては、医療機関との契約を結んでおり、緊急時には受け入れの体制を協力してもらっている。また、入院した際は、綿密な情報提供と定期的な連絡・相談をもとに訪問も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、家族と主治医、管理者、ナースにて話し合い、家族希望を取り入れた方針を全体にて共有している。また、かかりつけ医と綿密な連絡を取り合い今後の対応を常に話し合っている。事業所の出来ること、出来ないことを見極め終末期の話し合いの際に事前に家族へ伝えている。	入居時にホームの終末期支援への取組について説明を行い、心身の状況に応じて改めて医師との話し合いの機会を持ち、家族の意向を聞きながら契約を交わしている。この2年間で行われた終末期支援では、医師の毎日の訪問や、訪問看護、職員の連携により思いに沿った支援に努めている。家族の面会も感染症に十分配慮し、可能な限り入居者と家族との時間を作り、職員も入居者を偲びながら振り返りの時間を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを設置して、見える所に掲示している。またナースによる勉強会や対応・方法についてミーティング時などに定期的確認している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火研修へ、防火管理者が参加しておりその後の研修発表や勉強会・避難訓練にて避難方法や対策検討を図っている。	今年度は6月に地震を含めた防災訓練を、12月に火災訓練を実施している。12月の訓練では消防の立ち合いを予定していたが、感染症の影響から実現に至らなかったようである。避難誘導では、2階の入居者の避難がやはり一番の課題にあげている。備蓄はコロナ対策品と、自然災害用を確保している。安全チェックは第1水曜日と定め、意識を持って取り組んでいる。	以前は近隣者の参加を得た訓練も行われており、今後は感染症の状況を見ながら地域の協力を得た訓練が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を把握し人格を尊重した言葉使いを心掛けているプライバシー対応については、プライバシーに関するマニュアルを整備している。	一人ひとりを尊重し、言葉使いやプライバシーに配慮した支援については、マニュアルや会議などで共有を図っている。呼称はその方の反応を見ながら苗字や下の名前に対応している。身だしなみやおしゃれの一つとして、起床時の整髪や整容、好みや馴染みの衣類の選択など希望や必要なサポートにより決定している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の状態や、個人の能力を把握し、状況に合わせた説明を行い、自己決定が出来るような促し・関わりと意思尊重を重視した生活を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先とせず、利用者中心とした生活ペースを優先とし、利用者本意の支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の個性を活かした整容を心がけ、満足いくおしゃれが出来るように、衣類は本人に馴染みのある物を持参していただいている。着たい服装を選択していただいたり、理容室も訪問してもらい本人希望を確認する様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせて、一緒に準備や後片付け、食事作りを行っている。また、本人希望メニューなどの食事が出来るよう配慮している。誕生会では、誕生者の好きな食事の提供を行っている。	開設当初から専門店からの食材を活用しながら、職員による献立や調理が行われている。好物のアジフライを要望される方にも手作りで対応する他、誕生会での希望メニューではちらし寿司が多いようであり、時には目先を変えて回転ずしの持ち帰りなども活用している。入居者の調理への関わりは少なくなっているが、白菜をはがしてもらったり、ごぼうの皮削ぎなどできる事に取り組んでもらっている。年末、お節作りで台所に立つ職員へ「正月は何かせなんど?」と言われる方もおられるなど、主婦として励んでこられた先輩からの一言であったと管理者は語っている。	職員も同じものを摂ることで思いを共有し、勤務への活力となっている。職員によるホーム内調理は入居者にとって楽しみとなっており継続した取組に期待したい。入居者の状態に応じ、可能な限り食への関わりが持てるよう引き続き支援いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に添った水分補給や栄養バランス、個人にあわせた食事形態や量を提供している。摂取が少なめな方には、栄養補助食品の提供や、咀嚼困難な方にはトロミづけや刻み、ミキサー食の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後に本人に合わせた口腔ケアを行っている。希望者での夜間入れ歯洗浄剤使用などを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し本人に合った排泄が出来るようケアプラン等にも取り入れ支援している。また、トイレでの排泄を基本とし、オムツ使用の軽減に努めている。	現在、リハビリパンツを使用される方が中心であるが、中には布パンツで過ごす方もおられる。排泄はトイレを基本とし、時間帯や状況に応じてポータブルトイレを使用される方も1名おられ、居室内への配置であり特に清潔に管理している。排泄パターンや状況は職員間で共有を図り、排便の状態も細かに記入する事としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜間不眠・食欲不振の影響を理解し、牛乳摂取や個別散歩・体を動かすレクリエーション・食物繊維の摂取等により、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望があれば、入浴日以外でも出来る限りの対応を行っている。生活習慣や個人の性格を把握し、入浴のタイミングを図っている。入浴剤を使用したり、音楽を掛けたりしながらリラックスできる様に努めている。	基本的に午後から週2～3回の入浴と必要に応じた清拭を支援している。入浴を楽しみにされている方もおられ、入浴日以外にも可能な限り対応している。入るまで拒否をされる方にも無理強いせず誘導している。時には音楽を流したり職員が歌をうたうなど寛げる雰囲気を作っている。時には入浴剤を使用したり、菖蒲や柚子湯も継続して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めておらず、利用者の状況に応じた対応(不眠時の対話・水分や甘味提供、寄り添い、訴えに添った対応)にて安眠の支援に努めている。便秘の為での不眠へとならぬよう排便管理をチェック表にて管理し対応や処置を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて情報の共有に努めている。新しく処方されて服薬での症状については申し送りノートに記載し、状態観察や記録に残し変化の確認に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常での家事(掃除・料理・食器拭きなど)外回りの草取りや植物の手入れ、散歩など、その人の生活歴に生かした役割や楽しまれる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のなり外出が難しくなった為、天気の良い日など日光浴や散歩を行う様になっている。	以前のような外出は困難であったが、玄関先での日光浴や駐車場の散歩を中心に組み立てている。駐車場内には多くの季節の草花が育つ環境にあり、それら草花の写真や四季の歌を集めて冊子としたものは「桜と野草の歌う観察会」のタイトルが付けられ、外出を控える入居者のレクリエーションなどで活用されている。この春は駐車場の桜の開花を見たり、感染症の状況を見ながら、まずは個別支援で入居者の好みの食べ物など買い物に出かけたいとしている。	コロナ禍で外出の機会が減り、出かける事も億劫になられる方もおられるようである。外出は気分転換や筋力低下を予防する事にも繋がると思われ、引き続き出掛けたいような働き掛けに期待したい。また、ビデオやDVD、ユーチューブなどを活用して全国の花の開花や旅行気分を味わえるような取組に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失など家族の了承のもと、希望があれば金銭管理を本人にしているが現在1階にはいない。ただ、本人が食べたいものや希望の品物がある時は買い物の際に購入し届けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書くことが可能な方には、年賀状の作成や、本人が希望時には、自由に電話が出来るように支援している。1階入居者1名携帯電話を所持している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある飾り付け、レク時に作成したものを展示したりしている。また、花を玄関先やホールに置いたり、写真の掲載をしている。不快な音や光が無いよう配慮し、廊下は調節出来る照明を設置している。	各ユニットが飾りつけやレクリエーションでの作品の掲示など、入居者も一緒に関わりながら季節に応じた環境を作っている。テーブルは向きを変えたり、一つにつなげるなどその時々で検討し、席の配置も入居者の希望や相性なども考慮して検討している。訪問当日も歌や笑い声など入居者の明るい声や職員とのやり取りなど日常の様子が伝わってきた。	経年と共に掲示物の傷みなども見られることから、定期的な見直しの機会を持つ事も必要と思われる。取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置して、利用者同士の談話のスペースを確保している。場合によっては、事務所や踊り場でのスペースも使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前から、本人や家族と相談し居心地良く安心して過ごせるように使い慣れた物を持ってきてもらうようにしている。(仏壇・タンス・こたつ台・化粧台・リクライニング椅子など)本人らしく、個性ある居室の支援に努めている。	居室へは何でも持ち込んでも構わないこと、自宅にある物、家族には必要でなくても本人にとっては大切な物などわかりやすく説明している。自宅にあるピアノが持ち込めないため、新たにキーボードを用意された方や仏壇は心の拠り所となっている。職員は個性のある居室で安心、安全に過ごせるよう努めている。	職員は朝の掃除機かけや引き出し内の衣類確認など日々取り組んでいることを家族へ伝えている。面会を控えている家族にとって居室内の状況は気になる点であり、継続した取組に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、段差を解消し、居室やトイレ・浴室などのドアは横開きとなっている。自立を促せるよう手すりを要所に設置し、居室には各自の名前の表札を設置し、トイレ・浴室などにも分かりやすい様に場所を明記している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4370103725		
法人名	有限会社 ジャスト・サポート		
事業所名	グループホーム やすらぎの郷たつだ 2F		
所在地	熊本市北区弓削1丁目8-47		
自己評価作成日	令和5年2月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和5年2月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

グループホームの基本理念をスタッフ全員で共有し、利用者一人ひとりの個性を理解したケア、対応に繋げている。また、入居者本意の生活・自己決定・意思の尊重を大切に家庭的で安心と満足ある生活の提供に取り組んでいる。医療面での体制も毎週月曜日に2週間に1回1階・2階の往診(定期往診)対応しており、利用者の安心感と医療面でのバックアップとなっている。コロナ禍になり地域行事参加が困難な為、ホームへの季節行事を行うことで季節感や気分転換を図ってもらえる様に努めている。また、家族との時間も過ごしてもらえるように家族との距離を取っての短時間面会やテレビ電話を行うことで家族との楽しい時間づくりになる様に努めている。また生活や身体状況変化の電話連絡や面会の際の伝達はもちろんのこと、地域への働きかけや、関わり状況を把握していただけるよう運営推進会議は実施出来ていないが、連絡を取議事録作成を行い運営推進会議委員の方々へ送付したり、やすらぎ便利にて利用者の生活状況や表情を見ていただいている。それらを基に安心と信頼関係の構築に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲げ事業所のわかりやすい所に掲示し申し送り後やミーティングの際に共有しケアに生かせる様に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為地域行事やホーム行事などは出来ていないが、回覧板や、自治会長、民生委員の方々との定期的な連絡は取り合い、情報の共有を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて運営推進会議は行っていないが、定期的に連絡を取りながら情報の共有を図り、気軽に相談をしていただけるよう伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際の運営推進会議はコロナ禍になり行っていないが、日頃より連絡を取り共有して意見も取り入れられるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か相談事例がある場合は熊本市にて介護相談を図っている。昨年はコロナ施設内感染があった際は保健課より訪問していただき感染対策の指導をして頂いている。また、生活保護の入居者も多く担当部署と連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やミーティングの際に身体拘束を行わない方針を理解し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、虐待の内容などについて勉強会を実施している。スタッフ間にてよく話し合いをする様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待の経済的虐待と共に、青年後見人制度についての必要性や仕組みについて話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する不安や疑問点・解約についても含めて、入居契約時に時間をかけて十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の不満や苦情はその都度対応できる様に務めている。又、家族様へはコロナ禍の為に定期的に連絡し報告や意見を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の意見を聞くように努めている。状況によりオーナーに意見や提案として報告している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの状況については、日報やその他、定期的な報告によって状況把握されており、処遇に関しても現場の意見を反映させている。また勤務年数10年の職員に手当てがある事になり、職員のやる気にもつながっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのスキルアップに関しては、理解されており勉強会や研修参加の働きかけがあり、育成に努めているがコロナ禍になり余り参加出来ていない。今後オンライン等を使いながら参加を促していく。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加へ余り参加できていない為、定期的に同業者と連絡を取ることで交流機会が保たれている。今後オンライン研修等への参加を進めていきたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に入居者様、その家族様とのコミュニケーションを図りながら不安なこと等を聞き取ると共に他施設職員と綿密な情報共有が出来るよう努めている。また利用時には、その情報を基に安心できるケアが図れる様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際に、インテークシートを持ち寄り、情報収集と共に要望などの把握に努めている。また、入居後も定期的に連絡をし聞く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況に合わせてその時に必要とされるサービスの情報提供やアドバイスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活を職員、利用者様と家族のように過ごして頂くために家事の手伝いやレクに参加してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて居室での面会が困難な生活の中、家族とのテレビ電話や家族との距離をおいての面会を行うことで家族との時間が図れる様にし、家族も共に支えている関係性が保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外のお手紙や連絡等あった時は家族様へ連絡し了承後、連携を取り交流を図っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より職員が入り利用者様季節ごとの行事や、1日1～2回のレクレーションを展開し関わり合いが持てるよう関係構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や、本人からの相談があった際は、時間を設けて相談にのっている。現在以前母親が入居されていた娘さんが運営推進会議の委員の1人におられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活にて情報収集し、一人ひとりの性格や希望を尊重するように努めている。また本人からの情報収集が困難時は、生活歴や家族からの情報を取り入れる様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビューによる情報収集、家族の情報、これまでの利用機関からの情報、本人の会話をもとに把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りによる生活状況の把握、カンファレンス、個別記録、日課表をもとに把握している。有する能力については、レクやIADL参加を促しコミュニケーションと共に現状把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、家族、他スタッフ、主治医等と必要に応じて話し合い、評価、介護計画作成を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録とケアプラン実施記録を個別記録に記載し、評価、介護計画作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望や状況に応じた定期的な往診・受診、必要なりハビリを行っている。また、様々なニーズに対応できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に生活を楽しめるよう民生員や町内役員を通じて、見守り体制などの協力を促し整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある際は、家族希望のかかりつけ医の受診を支援している。また主治医と相談し、専門医への診察や相談、治療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員・介護職や往診のナースと相談・報告・連絡などの連携を図り、意見交換を行いながら健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との協働に関しては、医療機関との契約を結んでおり、緊急時には受け入れの体制を協力してもらっている。また、入院した際は、綿密な情報提供と定期的な連絡・相談をもとに訪問も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、家族と主治医、管理者、ナースにて話し合い、家族希望を取り入れた方針を全体にて共有している。また、かかりつけ医と綿密な連絡を取り合い今後の対応を常に話し合っている。事業所の出来ること、出来ないことを見極め終末期の話し合いの際に事前に家族へ伝えている。訪問看護も活用している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを設置して、見える所に掲示している。またナースによる勉強会や対応・方法についてミーティング時などに定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火研修へ、防火管理者が参加しておりその後の研修発表や勉強会・避難訓練にて避難方法や対策検討を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し言葉使いに気を付けプライバシーを守り常にマニュアルを整備している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の状態や、個人の能力を把握し、状況に合わせた説明を行い、自己決定が出来るような促し・関わりと意思尊重を重視した生活を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が穏やかに安心した生活が送れるようにペースをみださず支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服等選んでいただいたり身だしなみの介助、声掛け等、自尊心を傷つけない様に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにして頂ける様、メニューを工夫したり、好みの把握に努めている。誕生会では、誕生者の好きな食事の提供を行ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細目に水分補給を促すように気を付けている。摂取が少なめな方には、栄養補助食品の提供や、咀嚼困難な方にはトロミづけや刻み、ミキサー食の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方も見守り声掛けを行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し本人に合った排泄が出来るようケアプラン等にも取り入れ支援している。また、トイレでの排泄を基本とし、オムツ使用の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜間不眠・食欲不振の影響を理解し、牛乳摂取や個別散歩・体を動かすレクリエーション・食物繊維の摂取等により、便秘予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望があれば、入浴日以外でも出来る限りの対応を行っている。生活習慣や個人の性格を把握し、入浴のタイミングを図っている。入浴剤を使用したり、音楽を掛けたりしながらリラックスできる様に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めずに状況に応じて対応するようにしている。夜間不眠時は日勤帯の時間を使い適度に調整する様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルにて情報の共有に努めている。新しく処方されて服薬での症状については申し送りノートに記載し、状態観察や記録に残し変化の確認に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常での家事(掃除・料理・食器拭きなど)外回りの草取りや植物の手入れ、散歩など、その人の生活歴に生かした役割や楽しめる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のなり外出が難しくなった為、天気の良い日など日光浴や散歩を行う様にしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失など家族の了承のもと、希望があれば金銭管理を本人にしてもらっているが現在1階にはいない。ただ、本人が食べたいものや希望の品物がある時は買い物の際に購入し届けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	書くことが可能な方には、年賀状の作成や、本人が希望時には、自由に電話が出来るように支援している。1階入居者1名携帯電話を所持している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある飾り付け、レク時に作成したものを展示したりしている。また、花を玄関先やホールに置いたり、写真の掲載をしている。不快な音や光が無いよう配慮し、廊下は調節出来る照明を設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを設置して、利用者同士の談話のスペースを確保している。場合によっては、事務所や踊り場でのスペースも使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時今まで生活されていた時に使用していたものをなるべく持ってきていただき安心して過ごせる様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、段差を解消し、居室やトイレ・浴室などのドアは横開きとなっている。自立を促せるよう手すりを要所に設置し、居室には各自の名前の表札を設置し、トイレ・浴室などにも分かりやすい様に場所を明記している。		